

平成28年度第3回富里市産業振興推進会議議事録

- 1 日 時 平成29年3月27日（月）午後3時40分から午後5時10分
- 2 場 所 富里市役所3階第3会議室
- 3 出席者 本多円佳委員，寒郡茂樹委員，藤崎綾子委員，田中英之委員
二川健一郎委員，櫻井優好委員，中山健アドバイザー
（事務局）市民経済環境部長，商工観光課長，商工観光課事務局
高須農政課長

〔会議次第〕

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 題
 - (1) 富里市の産業の課題について
 - (2) 産業振興に関する事業者及び経済団体ヒアリングの実施について
 - (3) その他
- 4 その他
- 5 閉 会

〔会議概要〕

1 開 会

(事務局より開会のあいさつ

議事録作成のため会議を録音することを説明。市民経済環境部農政課高須課長の出席を報告。)

2 会長あいさつ

(会長あいさつ)

事務局 本日の会議の定数の報告をした。過半数以上の委員の出席があるので、富里市産業振興推進会議の運営に関する要綱第3条第2項の規定により会議は成立している。本日の欠席している委員の報告をした。会議は、富里市産業振興推進会議の運営に関する要綱第3条第1項の規定により会長が議長を務める。

議 長 本日は傍聴人はおられますか。

(傍聴人なし)

議 長 会議を再開します。

議題(1) 富里市の産業の課題について

事務局 議題(1)についてでございますが、過去2回開催しました産業振興推進会議での委員の皆様からのご意見と、3月3日に千葉県経済政策課と富里市、富里市商工会と合同で開催しました地域勉強会での事業者の方のご意見を整理しました。1ページ目からですが農業と、商工業、全体共通事項と3つに分けて、それぞれの強み、弱み、それに対する考えられる対策や意見を記載しました。

(資料により説明)

議 長 ただいま、事務局から説明がありましたが、ご意見とかご質問ございますか。

では、私の方から、商工業になるのか、馬の方の、軽種馬協会もありますし、乗馬クラブ等もありますけども、その部分は強みだと思えますが。前回は話が出なかったですかね。できれば入れておいた方がいいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局 3 ページ目の全体共通事項として、空港、馬、すいか、にんじん、国際化とまとめて載せてはおりますが、商工業のところに馬、牧場について別途載せたいと思います。

議長 B 委員いかがですか。

B 委員 これに過不足があるかどうか、今ここでは難しいんですが、また、議論していく中で適宜付け加えたりすることが許されるという認識でよろしいでしょうか。

議長 そういう形で良い訳ですよ。

よろしければ、次の産業振興に関する事業者及び経済団体ヒアリングの実施について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料の 4 ページをご覧ください。

業種別に農業、商業・サービス業、工業と、他自治体の事例を参考に調査票を作成しました。

本日、皆様にお示ししたばかりですが、調査票の内容について、ご意見をいただきたいと思います。

また、配布方法、回収方法につきましても、ご意見をいただければと思います。事務局では直接調査票を元に事業者様にお尋ねすることも考えておりますが、委員の皆様から良い方法があれば教えていただければと思います。

調査時期につきましては、ご意見をいただき、4 月から取り掛かりたいと思います。

議長 では、時間がかかるかもしれませんが、内容についてもご説明をしていただいたほうが良いのではないですか。

事務局 では、4 ページの産業振興に関するアンケート調査（農業者向け）をご覧ください。調査内容については 5 ページからになります。（資料により説明）

会 長 農業のほうでこれだけの項目が出ましたが、今日、根本組合長がい
らっしゃいませんが、売上高の構成がこれでいいのかどうか、ご意見
とかどうですか。

A委員 この年収を含めて、農業センサスとのバランスですが、これで出来
ていましたか。出来ればセンサスと同じようにした方が読み取りやす
いと思います。

事務局 農業センサスの基準を参考にして項目を立てさせていただきます。

E委員 概ね良いと思いますが、私の希望としては、最近作付面積について
統計調査をしていないと思います。何の作物がどれだけの面積で作ら
れているのか、最近取られていないと思うので、統計を取ってもらう
事はできますか。今回は厳しいものなんでしょうか、お伺いします。

事務局 作付面積の統計ですが、過去にやられたことはありますか。もし調
査項目を教えていただければそれに合わせて、また、過去と変更点が
あれば、せっかくの機会ですのでやらせていただければと思います。

事務局 最近、種目別、生産物別に統計が取られているところもありますの
で、もう一度整理して、いずれにしろこの機会に調査が出来るように
したいと思います。

アドバイザー

これは無記名のアンケートということになっていますが、8ページ
の上段にお住まいは、とあります。非常に細かい形で取っていると、
無記名とはいえ個票ベースで見ると、特定されてしまう可能性があります。
7ページの下段にも性別、年齢がありますので、これはあの人
が書いたと、特定される恐れがあります。地域をもう少し大きめにす
るのかどうか。自分が特定されることを気にする方もいらっしゃるの
で、その辺の兼ね合いをお考えになっていただければ良いと思います。

事務局 括りをもう少し見直してみたいと考えます。大字等に変更させてい

ただくように検討します。そうしますと、15前後になろうかと思えますので、選択肢が狭まります一方、答えた方の特定が難しくなるのではないかと思いますので、そういう方向で検討させていただきます。

J 委員 農業について詳しくはありませんが、農業に従事している男性の方々何名かに、こういうことを含めて問題点あればと、お話した中で、私達が前回の会議で話したようにすいかは、これだけ第2位になれるのに後継者がいないために、それが下がっていくことがあれば、大変もったいないことで、市外からもすいかをやってくれる従事者を増やしていくことも考えられるのではないかと話をしました。

従事している方からは、問題はそこではなくて、すいかをやっていくにしても、収益が上がらない現状があるので、子供に継がせたくないんだとか、あとはすいかをやめて、みんなにんじんに流れちゃうんだよと、現場の人達は同調されていたんですね。だから、このアンケートに関しては、今やっているすいかだったらすいか、にんじんだったらにんじんを、そのままやっていくであろうという前提でしか捉えることが出来ないと思いますが、すいかから他に変えたいと思っている方達もいるということが伺えたので、例えば後継者、農業をやめるならば必要ないということになるのでしょうか。ずっと農業をやってもらえるかどうかというのも一つ問題点としてあるのかなと。すいかをやめてにんじんに変えるところもあるようですが、それをどこでどう拾っていけるか分からないのですが、実際あるのでしょうか。

議 長 作物を転換したいですか、という質問にするのか、後継者についても。

E 委員 どれだけいるかってことですか。

J 委員 そういう人がいるということが分からなかったの。そういうことを知る必要があれば、作物の転換を考えているということも意思としてアンケートに入れてもいいのかなと。現状はすいかから変わるということは多いんですか。にんじんとかに。

E 委員 実際にはすいかは重労働で手間もかかりますし、それほど儲からない、儲かる作物ではないとよく言っているのです、その時期ですと春にんじんとかになったりしています。

事務局 前回の会議の中でも、根本組合長が言っていた内容に一部当てはまるかと思いますが、調査の全項目を全員の方に、農業者の方に質問を取るとなると、対象でない方からのご意見等がないという形で集約してしまうことになってしまいますので、できれば、聞き取りを行いたいと考えます。事実上、作物の転換等につきましては、歴史ある富里の農業の中でも推移してきている作物の現状というのもありますので、そういった背景というものをこちらからお話しながら、直接的にお話を伺いながら、意見を集約していければと考えますがいかがでしょうか。

J 委員 それでよろしいかと思えます。

議長 千葉県の農業生産が第2位から第4位になったという話がありまして、茨城と比べると圧倒的に人手不足であると。その人手不足の内容については、特に茨城については外国人労働者の割合が高いという話がありますけども、これ誘導してしまうことになるかもしれませんが、人手不足という部分が出た場合に、外国人労働者を積極的に受け入れるという希望が多いのか必要ないのかというのは取っておいてもいいのかなと思います。これは非常にちょっとセンシティブな問題でしょうか。

農政課長 富里の農業におきましても、高齢化と人手不足ということは盛んに言われていますし、国も今、外国人の方の人手を使ってということは机上に上っているところでございます。今の形では、外国人の雇用ということは認められずに、研修生という位置付けのものとして雇って働いているというのが現状でございますが、先程も申し上げましたように、国としても外国人の方をそのまま雇用として使えるようにとの動きはあるようですので、その辺を見極めてまいりたいと思えます。

B 委員 意見というより質問ですが、このアンケート調査である程度ざっくりとした傾向がつかめると思いますが、例えば、問15の本市で農業を行って問題と思う点は何ですか、ということ聞いたときに、人手の確保がしにくいとか、後継者が確保できないに多くまるが付いてきたとして、そこから少し掘り下げて、人手が確保しにくいボトルネックは何なのかとか、後継者の確保ができないその背景はなんだろうかと、聞きたい場合、どういう手法を使って掘り下げていくことになるのですか。

このアンケート調査は無記名とすることで数をそれなりに集めたいという趣旨だと思いますが。

この会議で掘り下げていくことも一つのやり方だと思いますが、その辺の考え方をお伺いします。

事務局 先程、一部で聞き取りをさせていただくとお答えした部分がありますが、こちらは調査前に、或いは調査と同時に出来ますが、分析という行為になると思いますので、これにつきましては、ワーキンググループ等に、実際に農業の現場の方をお招きして、過日、商工業で行いました、ヒアリングと同様な方法で、そのときに人手の確保がしにくいという方がその場におられるかどうか、疑問がありますが、農業者の声を聞かせてもらう機会を持つ以外はないと考えますので、アンケートもしくは調査終了後、農政課と協調しながら進めさせていただければと考えます。

A 委員 付け加えてお尋ねしたいのは、私も従前、一昔前くらいに農業関係に対する、生産者に対するアンケートをきちんとやってくださいとお願いしたことがありました。なぜ、それに踏み込めないかという、正直、農協の組合長さんがいても申し上げますが、例えば設備投資するにあたって、どこどここのところに行けば農協さんより安く買えるとか、いろんなジレンマの中で農業の生産者の方はやっているわけです。質問して返ってくる深々とした答えの中には、非常に農協さんに関連する複雑な問題が絡んでくるから、我々がお願いしたときに感じるアンケートというとなかなか出しづらい。協力を求めても、それが実行されていないというのが今日の姿です。だから、本来ならば、これは

これでざっくりした形でいいですが、農業も生産者が収益を向上させて生活ができるのであれば、すいかだっって何だっってやりますよ。ところが、マーケットに出しても生産能力に対してのプレミアムがあまりないから、後継者不足という括り、パッケージの中で括られている。私はそんなことはないと思います。残念ながら、すいかは、もう十数年前から十分の一まで作付けが落ちてきている。逆ににんじんが10倍以上増えてきている。その現状というものをしっかり精査して、まさに第一次産業者としての価値観を改めて検証していかないと、農業が富里市の基幹産業であるということが、本当に薄れてきてしまう。都市計画が出来ないという前提条件に立つならば、8割以上が純農地であるということに対して、もうちょっと関係機関が、真剣に真摯に勉強していくべきところに来ていると思います。遅いくらいだと思います。農業者に対するアンケートを取るなら、また別の角度でやるのも一つだと思います。

作付けの話は平成17年の農業センサスを後にして、ほとんどなくなってきて、だけど、平成23年か24年頃の調査があります。平成の初めのところから作付けの状態というのは把握できるわけです。それを是非、アンケートとは別の形で、資料を提出していただいて委員の皆さんに実態把握をしていただく必要があると思います。是非お願いします。

事務局 今のご意見を踏まえた上で、ただ、アンケートの基本的なスタンスについてはご理解いただいているところだと思います。アンケートの結果から掘り下げるべきところ、今、いろいろとお話が出ていた項目がございますので、それらについては、農協さんが団体としては中心ですが、その他にも農業法人など団体がございます。そういうところに、均等に掘り下げるべき課題についてディスカッションをする場を、その後に設けて聞き取りをしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それではそのように進めさせていただきます。今お話があったとおり、富里はスイカという農産物が売りであったわけですが、現状は、にんじんの拡大と生産現場における農業機械の導入で、やりやすいものがやはり流行ってきて、労力がかかるスイカなどの生産についてはやはり減少傾向にあります。これは高齢化や人手不足によるものと、

農家さんの体力的なところから来て、そういう方向にあるのは否めないところがございます。私の立場で言いますと、農政も預るところでございますが、今目指すところについては、すいかの機械化が出来るところがあるのかどうか。ちょっと難しいようですが。それとブランド化ですね。これは富里スイカという知名度もありますので、これを裏打ちしていく個別、固体の価値の増加を図るようなことを今考えているところがございます。他方、にんじんなどの作りやすい作物で最近は安定してきている。買取りについても、安定してきているということも聞いておりますので、それぞれ増やすべきもの減らさざるべきものに対する項目を絞って、ヒアリングをしたいと考えております。

事務局 では次に10ページをお願いします。(商業・サービス業者向けアンケート項目について説明)

議 長 では、私から、まず経済センサス等もありますが、もうちょっと実態を把握するための資本金とか、従業員数とか、売り上げも、6番の1億円以上でざっくりでいいのか。今、データできっちりと持っていないのですが、富里の商工業の中でサービス業が、全体の6割から7割を占めているはずです。そうすると販売の形態だとか、これだと商業に近いので、実態としてはどうなのかなと思いました。サービス業等の実態をこれだと把握しづらいという気もしますが、その辺を是正したほうがいいと思います。

事務局 今ご指摘いただきましたサービス業を含めて業態の分類については商工会さんと相談、確認して調整させていただきます。

議 長 もう少しいいですか。いろいろ言って申し訳ないですが、特に戦略的なといいますか、そのサポートに関して、例えば地域の中で20億、30億或いは100億を超える企業、地域の中核となる企業に対するサポートの仕方と、売り上げが1億もいないような本当に小規模な企業に対するサポートの仕方は、たぶんかなり違うと思います。それをきっちり見極めるためにも、ちょっと細かい部分を20検体、30検体ヒアリングして、これにアンケートに則らない形でやるので

したらそれは又別だと思えますけど。

A委員 1億円の資本金が、たしか150社か180社くらいだと思いますが、このアンケートに関してはそういう企業を対象にする必要はないので、もっと低いところでやらないと。実際1億円以上の売り上げといたら会長のところぐらいかもしれないし。該当の多い部分を対象にして欲しいです。

アドバイザー

14ページに業種は出ていますが、卸し、小売、サービスとあって、一般に卸しは、売上高は高いです。手数料収入に頼っていますから。本当は利益を聞くのが一番いいのですが、なかなかそこには踏み切れない。ちょっと工夫が必要だろうと思います。設問全体が、ほぼ小売業を対象とした内容になっておりまして、先程会長がおっしゃったようなサービス業と卸しもあると思いますので、そこも意識していただいて修正が必要ではないかと思えます。

事務局 郵送等で画一的に行うというのも一つの手立てだと思いますが、回収される数等について、若干過去の実績からも疑念がありますところから、できれば職員がお伺いする、若しくは商工会さんの力を借りて、個々に調査票を渡して、国調のような形でやらせていただくのが一番集めやすいのではないかと考えております。先程農業のときと同じように、もし直接お話をお伺いする機会が調査の際にあれば、そのときにこちらで出ていますいろいろなご意見の中から、いくつか問題の集約としてこういう意見が会議で出ているけども、というインタビューを織り交ぜながら、やらせてもらえればと考えております。今のところは職員で対応、若しくは商工会さんとタイアップをさせていただいて、計画していきたいと考えております。

A委員 そういう形になると、問3にしても10人未満から100人以上という形で中小企業、零細企業となると10人未満のところはほとんど多いわけですから、ターゲットとして、偏ると100人以上の6にまるところはない形になる。或いは1億円以上のところにかいな

いという偏りが出てしまう。その辺の選択する範囲によっては番号に無理が出てくると思いますが、その辺はどんなお考えなのか、お尋ねします。

事務局 調査項目について、ご指摘のとおり、富里市の実情若しくは検体の実情に合わないようであれば、例えば、これ以上という設定をもう少し低くめに考えるとかしながら、それぞれ括りを検討させていただいて、項目を少し限定的になります。一つ上に、以上というところを持っていく、ということがもし適当ならば、そのようにしていきたいと考えますが、こちらは商業の調査でございますので、商工会さんにご意見を伺った上で設定を変えさせていただくように検討します。

アドバイザー

売上高、来店客数とかありますが、来店客数で結構設問を取ってはいますけども、均した形でどうなのかという感じでもいいでしょう。それとやはり、利益部分を何とか聞きたいと思いますが、黒字なのか赤字なのか。商工金融が以前行った調査では選択肢3つです。黒字である、それから収支とんとん、赤字であると、その位でしたら、まるを付けてくれるのではないかと思います。金額を聞かないのであれば。

J 委員 来店客数というところがすごくクローズアップされていますが、対面販売している商売だとこれでいいのかもしれないですが、私がざっと経営者の顔を浮かべたときに、お客さんが来店して売り上げに繋がっているお店は、すごく限られていると思います。私もネットとか通販的なことが多いので、実際の来店者数というとまた売り上げと全く違う数字になります。これはもちろん来店だけの売上高ではないので、このアンケートだと、わりと消費者がどのように平日、お買い物するのか、土日には出かけて買うのか、というところの設問のように感じました。それで、売上高も実際、職種によっては仕入れ値とか、経費自体も変わってくるので、その利益の部分が見えない。もしかしたら売り上げはすごくあるけど、経費がすごくかかるので、経営としては苦しいというような現状が見えないなと感じました。6割ぐらい販売、サービス業だとしても、やはり販売方法が違っていると、来店客数で一概に、

繁盛しているのか、していないのかは分からないのではないかと感じました。

事務局 問3にございます、来店客数につきましては、来店客数という表現から別な表現に変えさせていただき、例えば顧客数もしくはクライアント数等の表現を使わせていただくよう検討させていただくことでのいかがでしょうか。

J委員 何が適当なのかは、今分からないんですが、来店でも良いお店があれば契約数のところもありますので、そこを少し適当な文言を考えたら良いのではないかと思います。

議長 今、業態がいろいろあるので、それも業態に分類できないものもたくさんあるので、来店者数を聞いても良いですがあまり意味がないのかなと感じています。やはり最終的には、どれくらいの規模の人達がどういうことを困っているから、こういうことをしてあげるといのが基本になると思いますので。実際その分類をするについては、B委員、現状の中で小規模企業白書とか中小企業白書とか、あと経済センサスからある程度のデータは出るのではないですか。

アドバイザー

規模は大体、従業員数か資本金どちらかですよね。

B委員 もう一回よく商工会の方と相談して、一度シミュレーションされたら良いと思います。答えやすさとか、設問の数が適当か。そういったものは、また改めて商工会の方と相談するという事ですから、是非シミュレーションしてみて、ご検討いただければ良いと思います。

商工会さんに相談するときに、一つ補足していただければと思うのが、例えば問5のホームページを保有していますかと設問がありますが、保有している、していないと聞いた後に、国の調査ですと、保有していない理由を最低一つ聞いています。例えば、ホームページを保有していないと回答した人にお尋ねします、保有していない理由は何ですかときいて、ホームページを作る人材がいなかったか、必要ないと思

っているとか、そこまで聞いています。それ以上掘り下げていくと、ヒアリングをすればいいとか、設問の数が多すぎて回答の意欲が薄れる、という問題も出てくると思いますが、せっかくアンケートをやるので、最低ここまでは聞きたいと私が担当者だったらそう考えます。その辺も商工会さんをご相談するときの、相談事項に入れていただきたいという意見でございます。

C委員 農家さんですとか、商工業、サービス業それから大まかに工業、大型店向けのという形のアンケートだと思いますが、この数字自体を全体で把握ができていいのかどうなのかというのがまず一つ。それについて、たぶん市だと数字の部分の管理というか、見えていると思いませんし、それを数字にして出すと問題があると思うので、パーセンテージで出させていただくとか。それで後は、このアンケートでさっきおっしゃった、何をしたいのかという趣旨、10名以下とか例えば30名以下のところの支援をしましょうとか、もっと大型店を増やして税収の収入にしましょうとか、どういうふうにしていくのか、全体像とかそういうものがあるとそこに向かえると思います。

例えば農業ですと、高齢化が進んでいるという話がありますが、先日、君津のアグリアドバンスさんという、水耕栽培をやられているのですが興味があって、お金をかけたら出来るのかなと思ってちょっと行ってみました。やはり2,3千坪の敷地で坪10万円くらいのお金をかければ出来る、後はノウハウがないと出来ません。そうすることによって、さっきの農業のところに出てた、天候に左右されるというところがまずクリアできますし、働く方たちもやはりハウスの中なので仕事はしやすい。ただ、商品としては3割、4割高い商品になるので、それを露地物と一緒に売っていくためにどうするかと努力はされているようです。そのようなことを、富里でもやったらどうなのかなと思って見に行きましたが、なかなかそれは、お金を出してやる人がいないと出来ないのかなとは思いますが、何を趣旨でやるかというのをまず明確にした上でやっていったら良いと思います。

議長 工業のほうも引き続き説明をお願いします。

事務局 では次に16ページをお願いします。(工業者向けアンケート項目について説明)

事務局 農業から3つのアンケートパターンを、ご覧いただいたところでございます。頂戴しました意見を参考に、再度調査票を調製させていただきまして、もし可能であれば、皆様お忙しいところお集まりいただいて、またご覧いただいてとなりますと若干時間にも問題が出てくるところがございますので、事務局で修正させていただいたものを皆様にお送りするなどしてご覧いただいて、ご承認をいただければと考えておりますが、ご検討いただければと思います。よろしく願いいたします。

A委員 一点だけちょっと、資本金一億円以上の人は市中小企業の制度融資は使えますか。

事務局 ただ今、確認いたします。

農政課長 農政課から、先程E委員からお話があった作付けの件ですが、農林業センサスが平成27年度に精度を上げたということで、すいかを例に取りますと、すいかは野菜等で分類されていまして。27年度からすいかについてはすいかという項目で面積が載っております。当然にんじんとか落花生の作付面積も載っております。前回の会議の資料の中に入っておりますのでご確認をお願いできればと思います。

先程申し上げましたが、富里が2位だという話でしたが、確認を取る方法が今までありませんでした。植木町が一番ということでしたが、27年度につきましては植木町さんと実際比べることが出来ますし、尾花沢とかすいかの産地がいろいろございますので、面積を比べることは可能になっております。

B委員 その他ということで、今日はせつかくですから、事務局からも依頼されている事項が一つございます。前回のこの会議で、富里の中小企業の方と意見交換をしませんかとかご提案をさせていただきました。そして、県と市の事務局の方々と一緒に、先般、寒郡会長にも入ってい

ただいて意見交換会をしました。そのときの様子を若干説明させていただきたいと思います。

中小企業の現状と課題というところで、やはり後継者対策の問題が出て、息子に、娘に継がせるという時代ではもうなくなってきている。大体8割くらいの方が承継に、適当な親族の方がいらっしやらない、そうした状況もあるなかで、じゃあどうしようかというのは、当然これからの課題になっていくだろうという話が出ました。

当日の参加者の方で一人、逆に事業承継がうまくいった方がおられました。親御さんから継ぎましたが、第三者が間に入ることで、うまくいったと話をされていました。その第三者は税理士の方だったようです。税理士に中に入っていて、一緒に事業承継の計画を作って、それで進めて比較的スムーズに行ったということです。県も国も事業承継の課題については積極的に中に入って、その税理士の方と同じように、支援機関も一緒になって事業承継を計画的にやっていくような支援ができないかということが大きな流れにもなっております。

ただ、事業承継でもパターンがいくつかありまして、難しいものであれば、M&Aをどうするかといったものもあります。そうした比較的専門的な課題で中に入るということに関しては、昨年から千葉市に事業引継ぎ支援センターという専門家が配置された支援機関ができております。他方、日頃の、誰に継がせようかよくわからないけど、ちょっとした相談に乗ってもらいたいというのであれば、商工会がかかりつけ医的に相談に乗っていると思います。ただ、商工会の経営指導員がみんなM&Aのことに詳しいかということと必ずしもそうではないので、やはり、地域の商工会と千葉の事業引継ぎセンターとの連携、あと税理士とかそういった皆さんと商工会とセンターや商工会との連携をどうするのか。事業引継ぎに関連する様々な機関の連携体制については、県としても考えなくてはいけないなど、そういう認識で当日帰って来ました。

あと、富里らしい事例で、産業振興ビジョンの中に入れ込めていける切り口かなと思ったのが、学校給食の調理をずっとやっていた方が、お弁当屋さんですか、惣菜屋さんですか創業をされた話です。その方は地元の農産物を使ってなんとか、学校給食に出せるように出来ないかなと、考えていることをお伺いして、これを支援できたらおもしろ

いなと思いました。

関連した事例を紹介させていただきたいのですが、こうした動きというのは、実は県内の他の場所でも起こっていて、勝浦市、横芝光町でも同じ様な取組みを始めています。例えば勝浦市さんですが、あそこはカツオの漁が盛んで、カツオと一緒にマヒマヒという魚が捕れるのですが、今まではすぐに捨てていました。なぜかというところすぐ血抜きをしないと身が固まっておいしくなくなる。そこで地域づくりをしている若い人たちが漁師さんと連携して、捕ったらすぐにその場で血抜きをしていただく、それを陸に上げて加工してマヒマヒ丼とかマヒマヒソテーの形にして売り出していこうという、そんな動きをしています。それを勝浦の小学校の給食に実際に出しているのですが、これは目的がいくつかあります。一つは、子供たちに地域にこんな取組みをしている企業があるとか、大人たちがいるということを知っていただくというキャリア教育を通じて、自分の住む地域に対する理解を深めてもらう。地域への理解が将来の就職の選択肢として地元を考える、ということに繋がるかもしれません。

そのようなことを振興ビジョンの中に入れ込んでいくことが出来ればいいのかなと思いました。以上のような話が出たということをご紹介させていただきました。

事務局 先程、ご質問がありました資本金1億円以上は融資の対象になるかというご質問ですが、ただいま資料をお配りしましたが、製造業のところが該当いたします。

貴重な意見をたくさんいただきましてありがとうございました。アンケート用紙等につきましては、もう一度検討させていただいた結果を皆様に個別にお知らせするというところで、ご了承していただければと考えるのでよろしく願いいたします。

皆様、他に何かございますか。

A委員 今日、D委員が欠席していますが、いろいろと考えが、提案があるようでして、また個別に伺いたいといった話がありましたのでそれだけお伝えしておきます。

事務局 会議中でしたが、D委員から連絡いただきまして、急用でこちらにお越しいただけないということでした。また、ただ今、A委員からいただいたお話につきましては、事務局で承りたいと考えます。

長い間、又会議開始が遅れましたことをお詫びいたします。

以上を持ちまして、第3回富里市産業振興推進会議を終了させていただきます。ありがとうございました。